



写真-1 石像寺裏の「磐座（いわくら）」から撮影（平成28年5月）

■ 「依田家文書」に見る竹田川改修工事

写真-1 は、丹波市市島町中竹田の石像寺裏山にある「磐座（いわくら）」（写真-2）上から竹田川を撮ったもので、手前に JR 福知山線が通っていて、ちょうど特急「このとり」が丹波竹田駅を通過するタイミングでシャッターを切りました。

平成 28（2016）年2月某日、丹波土木事務所の要請を受けて竹田コミュニティセンター（丹波市市島町中竹田）の歴史資料室に展示している絵図「竹田川工事図」を見せていただきました。市島町史実研究会の青木正文会長によると、この絵図は、江戸時代中期から幕末・維新にかけて湯長谷藩（ゆながやはん：現・福島県いわき市）丹波領三ヶ村の在地代官を務めていた下竹田村（現・丹波市市島町下竹田）の依田家に遺されていた古文書『依田家文書※1』を解読

していく中で見つけたもので、江戸時代中期に行われた竹田川の改修計画図です。



写真-2 石像寺裏山の「磐座」

青木会長は、この絵図の技術的な解読を丹波土木事務所に依頼したそうですが、なぜか筆者に回って来て、気が付けば絵図の解読を筆者がする羽目に。筆者は古文書の解読などしたことがなく断ろうかと思いましたが、市島町はかつて筆者が県から派遣されて2年間お世話になった町であることから引き受けることに。

なお、写真-1 で自治橋が下竹田と中竹田の境界になっていて、自治橋より下流側が下竹田です。なので、古絵図も自治橋付近から下流が描かれています。

※1 依田家文書：江戸中期から幕末・維新にかけて、湯長谷（ゆながや）藩（現・福島県いわき市）丹波領の在地代官を務めた下竹田村の依田家に遺されていた古文書。丹波領は、氷上郡下竹田村、同東勅使（ひがしちやくし）村、何鹿（いかるが）郡私市村（ささいちむら：現・京都府）の3ヶ村。

■ 映画『超高速！参勤交代』のモデルとなった湯長谷藩とは？

この映画は、享保期、陸奥国磐城の小藩・湯長谷藩の藩主・内藤政醇（まさあつ）の時代を設定年代とし、江戸幕府から無理難題を突き付けられた弱小藩の藩主が、藩の皆で知恵を寄せ合って奇策を実行する時代劇コメディです。

享保 20(1735)年、参勤交代を終えたばかりの湯長谷藩は、湯長谷藩が所有する金山の調査結果に疑義があるため、事情説明のため「5 日のうちに再び参勤せよ」と命じられます。これは、無理難題をふっかけて湯長谷藩を取り潰し、金山を手に入れようとする老中・松平信祝（のぶとき）の謀略で、お金も時間もなく不可能に近い命令でしたが、政醇は家臣と領民を守るためにあえて理不尽な参勤を受け入れることに決め、家臣一の智者である家老・相馬兼嗣の提案を容れて早速準備に取り掛かります。

政醇以下の湯長谷藩一行総勢 8 人は、準備を整え江戸に向けて出発します。途中、信祝が差し向けた忍び衆の襲撃にあうなど次々に仕掛けられるトラップにも負けず、力を合わせて前に進み続ける湯長谷藩チーム。高萩宿、牛久宿、藤代宿、取手宿を通り抜けて江戸へ入り、湯長谷藩江戸屋敷にたどり着きました。

そして、政醇は急いで江戸城に向かい、大手門で待ち構えていた信祝と老中首座・松平輝貞ら幕閣と対面します。幕閣の前で政醇は、「湯長谷藩の金山から取れるのは、『慌て者の金』と呼ばれる鉄の一種」と明かし、これを聞いた輝貞は、「不確かな情報で騒ぎを起こした」として信祝を罷免します。

以上が映画のあらすじです。これはもちろんフィクションですが、第 4 代湯長谷藩主・内藤政醇、老中首座・松平輝貞、老中・松平信祝、本家の磐城平藩主・内藤政樹など、主な登場人物は実在の人です。

なお、湯長谷城でのシーンは篠山城跡が使用されています。



写真-3 湯長谷城でのシーンが撮影された篠山城址



写真-4 篠山城址・大書院

■ 磐城平藩の支藩として湯本藩を立藩、湯長谷城を築いて藩庁を移転、湯長谷藩となる

湯長谷藩は、磐城国（現・福島県）磐前郡の湯長谷陣屋（現・福島県いわき市常磐下湯長谷町家中跡）に藩庁を置いた藩です。江戸時代前期に磐城平藩の支藩として成立して以降、廃藩置県まで譜代大名の内藤家（一時期遠山家を称した）が 14 代にわたって続きました。石高は時期によって変遷があるものの 1 万石台の小藩です。

元和 8(1622)年、内藤政長が上総国（現在の千葉県中部から南部）から磐城平藩 7 万石の藩主として入部。寛文 6(1666)年、磐城平藩 2 代藩主・内藤忠興は、次男の政亮（まさすけ）に所領の増加分 2 万石を分与したいと願い出ます（新田分知）。

4 年後の寛文 10(1670)年 12 月、忠興の隠居に際して、幕府は政亮に対して陸奥磐前郡と菊多郡で 1 万石を分与することを許可します。藩庁は湯本に置かれ、ここに磐城平藩の支藩である湯本藩が立藩しました。政亮は本家をはばかり、「遠山」を姓として遠山政亮と名乗ります（第 3 代藩主・政貞の代になって内藤姓に復している）。

初代湯本藩主となった政亮は、延宝 4(1676)年に湯長谷城を築城し藩庁を移転、湯長谷藩となり城下町の建設に尽力します。延宝 8(1680)年には内藤忠勝乱心事件（磐城平藩主や湯長谷藩主の内藤家とは無関係）で事態を収拾した功績などにより丹波国氷上郡など新たに 2 千石を加増されます。貞享 4(1687)年には大坂定番を命じられたことから河内国内に新たに 3 千石を与えられ、合計 1 万 5 千石を領することとなります。

このように初代藩主・政亮は藩政の基礎を固め、『土芥寇讎記』でも「生まれつき悠にして行跡よし、家臣を助け育て奢ることなし。誉れの将なり」と高く評価されています。政亮は元禄 6(1693)年に 69 歳で死去しています。

本藩にあたる磐城平藩内藤家は、延享 4（1747）年に日向延岡（現・宮崎県延岡市）に転封されますが、湯長谷藩の内藤家はそのまま領地を保ち、幕末まで存続しています。

藩政においては、4 代藩主・政醇が「忠孝・儉約・扶助」を旨とする藩法を定めていますが、寛保元（1741）年 9 月 5 日、帰国直後に死去。享年 31。映画と違って、ずいぶん若くして亡くなったんですね。

10 代藩主・政民が藩校・致道館を創設して自ら四書五経を講じたとされるほかは、幕末期まで特筆するような事件も発生していません。地元では「名藩主が多い」とされています。

安政 2（1855）年、商人・片寄平蔵が藩内の磐前郡白水村（現：いわき市内郷白水町）で金でも鉄でもなく石炭を発見、後に湯長谷が常磐炭田の一大産業地になる礎が築かれました。

■ 下竹田村が湯長谷藩の飛地領になった増上寺刃傷事件

「増上寺刃傷事件」を起こした内藤忠勝は、志摩鳥羽藩の第 3 代藩主です。第 2 代藩主内藤忠政の次男ですが、寛文 11（1671）年、兄の忠次が跡を継ぐことを固辞して（あるいは病気のため）廃嫡されたため、代わって嫡子となります。寛文 13（1673）年、父の死去により跡を継ぎ、その際、弟の忠知に 2 千石を分与します。

7 年後の延宝 8（1680）年、第 4 代将軍・徳川家綱の 77 日法要に際し、忠勝は徳川家の菩提寺である増上寺参詣口門の警備を命ぜられます。普段から忠勝と仲の悪かった永井尚長は出口勝手門の警備を命ぜられていましたが、尚長は忠勝より上席にあるため忠勝を侮り、老中から受けた翌日の指示を記した奉書すら忠勝に見せずに立ち去ろうとします。忠勝は奉書を見せるように求めましたが尚長は無視したため、忠勝はこれを恨んで脇差を抜いて尚長に迫り、逃げる尚長の長袴を踏み、尚長が前のめりに転んだところを刺殺しました。この時、忠勝は遠山政亮に拘束され、伊奈忠易の元に預けられます。6 月 27 日、忠勝は西久保の春龍寺にて切腹を命じられ御家断絶となります。享年 26。

この刃傷事件に際し、政亮が忠勝を拘束し事態の収拾を図った功により、丹波国氷上郡など新たに 2 千石を加増されます。

■ 内藤忠勝の姉・内藤波知のつらい人生

余談ではありますが、「増上寺刃傷事件」を起こした内藤忠勝には姉・内藤波知（はち）がいて、波知は、播州赤穂藩主・浅野長友に嫁いでいます。そして、寛文 7（1667）年 8 月 11 日に長男・長矩（ながのり）、寛文 10（1670）年 10 月 29 日に次男・長広を出産しますが、寛文 12（1672）年 12 月 20 日に幼い二人を残して浅野家の江戸藩邸において死去しています。

そして長友も延宝 3（1675）年に死没したため、長矩・長広兄弟は幼くして両親を失うことに。

その後赤穂藩主となった長矩は、増上寺刃傷事件から 21 年後の元禄 14（1701）年 3 月に同様の事件を起こして同じ末路をたどることになります。



写真-5 赤穂城 太鼓橋と大手隅櫓

また波知の従兄甥・稲葉正休（まさやす）は貞享元（1684）年 8 月 28 日、江戸城で正休の従甥にあたる大老・堀田正を殺害したため、その場で斬殺されています。

波知は、これらの刃傷事件が起きる前に亡くなっているのがせめてもの救いか。

■ モノローグ

平成 26（2014）年に公開された『超高速！参勤交代』は、第 38 回日本アカデミー賞最優秀脚本賞および第 57 回ブルーリボン賞作品賞を受賞、平成 28（2016）年には続編となる第 2 作『超高速！参勤交代 リターンズ』が公開され、シリーズ累計興行収入は 27 億円を突破したとか。

その映画の第 3 作『超高速！参勤交代 フルスロットル』が令和 9（2027）年に全国公開されることが決まったそうです。

ところで、写真-1 は、石像寺裏の「磐座（いわくら）」から撮影したのですが、その石像寺は平成 26（2014）年 8 月の丹波豪雨で裏山から流出した土砂が寺の本堂や重森三玲（しげもりみれい：昭和を代表する作家）作の「四神相應の庭」に流れ込み、最大で 2m ほどの高さに達したとか。

2 年後の 5 月下旬に行ってみると、裏山には治山堰堤が完成し、本堂も復旧していました。



写真-6 石像寺本堂の被災状況（平成27年3月）



写真-7 復旧後の石像寺本堂

ギンバイソウ（銀盃草）

ナス科ギンバイソウ属の宿根草で、別名、杯草（サカズキソウ）。原産地はアルゼンチンやチリである。夏の暑さがやや苦手だが、植え場所や置き場所を選べば関東以西の温暖地でも夏越しができる。また、這性（はいせい）で葉が密に茂るので、グランドカバーとしても利用されるが、初夏に咲く白花も魅力がある。葉はへら形で草丈は 10cm ほど、花径 3cm ほどの白花が初夏に咲いて涼しげな印象を受ける。平成 28 年 5 月下旬、石像寺の境内に咲いていた。



写真-8 石像寺境内に咲いていたギンバイソウ

【参考資料】

- 1 『竹田村志』 竹田地区管理委員会 昭和 54 年 5 月
- 2 『日本の水制』 山本晃一 1996.1
- 3 『図録・農民生活史事典』 秋山高志・北見俊夫・前村松夫・若尾俊平 1991.1
- 4 『福知山市史～第一巻』 福知山市 昭和 51 年 11 月
- 5 『湯長谷藩、超高速!参勤交代、内藤政醇、松平輝貞、松平信祝、内藤政樹、内藤忠勝、内藤波知、稲葉正休』
フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』
- 6 『「超高速!参勤交代」シリーズ最新作 2027 年公開決定』 シネマトゥデイ HP 令和 8 年 6 月
<https://www.cinematoday.jp/news/N0155289>
- 7 『園芸植物 育て方と花の写真～銀盃草』 365 花撰 HP
<https://flower365.jp/06/672.html>

※発行：平成 28（2016）年 6 月 『ひょうご水百景』 No.61

改訂：令和 8（2026）年 6 月 『ひょうご水百景』 No.61-1